

平成29年度 奈良県立五條高等学校（賀名生分校）学校評価総括表

<p>学校経営方針</p>	<p><b>夢の実現を目指した活力ある学校</b>                  ～適切な「判断と決断」・少しの「勇気」                  ・夢の実現に向けた「挑戦」～</p>	<p>総合評価</p>				
<p>前年度の成果と課題</p>	<p>これまで、全日制・定時制・昼間定時制とそれぞれの生徒の実態に合わせながら、充実した施設設備を最大限に活用し、創造的で独創的な多くの取組みを積極的に実践することによって                  ①『学校の魅力づくり』                  ②『入学生徒の確保』                  を学校経営の主眼として学校の活性化に取り組んできた。学校改革に向けた取組みを始めて10年余りが経過したが、奈良県南部・地元五條市等の少子化の進行で不安定要素が大きくなっている。従って今までの取組みを通して明らかになった課題を整理し、生徒・保護者・地域の期待に応えるべく、農業担い手の育成やスキルアップを図るなどの更なる改善・充実を図る必要がある。                  平成28年度は、昭和41年度から数えて51年目を迎えた北海道現場実習の今後の在り方等を検討しながら計画・実施した。農業専門高校に特化した様々な取組みの検討を始めた。                  平成29年度は、平成30年度から全国募集をはじめ新たな学校として生まれ変わるため、その「魅力向上計画」を具体化するとともに積極的な取組みを進めたい。</p>		<p>B</p>			
<p>本年度の重点目標</p>	<p>評価の指標（担当）等</p>	<p>自己評価</p>	<p>成果と課題</p>	<p>改善方策等</p>	<p>学校関係者評価</p>	
<p>1 「社会で自立して生き抜く力」の育成</p> <p>(1) 確かな学力の育成                  ①静かで落ち着いた学習環境づくり                  ○学習活動の工夫を図る。                  ②魅力ある授業の創造                  ○基礎・基本の定着                  ③コミュニケーション能力の向上                  ④計画的・系統的な進路指導                  ○進路目標の早期決定・キャリア教育の充実</p> <p>(2) 豊かな心の育成                  ①積極的生徒指導の推進                  ②人権教育の推進                  ③規範意識の醸成                  ④地域貢献活動による生徒の主体的活動の推進                  ⑤現場実習等により社会性の醸成と正しい勤労観の育成</p> <p>(3) 体力の向上、忍耐力の育成                  ①心身の健康保持、増進                  ②体験活動の充実と忍耐力の育成</p>	<p>⇒生徒アンケート「授業や課題、小テスト等に取り組むことで、うまく学習を進めることができている。」(教務部) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">29年度&lt;目標:80%</span> 80%</p> <p>⇒保護者アンケート「授業の内容や進め方に満足している」(教務部) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">29年度&lt;目標:80%</span> 95%</p> <p>⇒生活体験発表会への参加 (教務部) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">29年度&lt;目標:全員&gt;</span> 100%</p> <p>⇒生徒アンケート(第4学年)「自分の希望する進路実現ができた」(進路指導部) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">29年度&lt;目標:90%以上&gt;</span> 80%</p> <p>⇒生徒アンケート(全学年)「生徒一人ひとりの進路に応じて、丁寧な指導が行われている」(進路指導部) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">29年度&lt;目標:90%</span> 80%</p> <p>・各実習及び地域貢献活動等を通じた規範意識の醸成</p> <p>⇒生徒アンケート「生徒会・ボランティアの活動は活発で、関心が持てる内容である」(生徒指導部) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">29年度&lt;目標:80%</span> 74%</p> <p>⇒事故件数・違反件数 (生徒指導部) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">29年度&lt;目標:0件&gt;</span> 80%</p> <p>85%</p> <p>85%</p> <p>⇒部活動加入率 (生徒指導部) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">29年度&lt;目標:50%</span> 40%</p> <p>⇒各体育行事の参加率 (保健体育部) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">29年度&lt;目標:90%</span> 90%</p>	<p>80%</p> <p>B</p> <p>95%</p> <p>100%</p> <p>80%</p> <p>80%</p> <p>80%</p> <p>74%</p> <p>80%</p> <p>85%</p> <p>85%</p> <p>40%</p> <p>90%</p>	<p>・専門教科では、実習主体で授業が進められていることもあり、生徒にとっては、興味関心を持ちやすいものとなっているようだ。普通教科等での座学でも、生徒の意欲を引き出す工夫がされているうえ、観点別評価により、生徒にとっては成果と課題がわかりやすくなっていると思われる。そのことは保護者の満足度からもうかがえる。</p> <p>・概ね希望通りの進路内定ができた一方、支援を必要とする生徒の進路保障には困難なことが多い。</p> <p>・ボランティア活動や地域貢献活動へ興味を示し、意義を理解する生徒は増加傾向にあり、地域社会との交流によって成長が促されている。</p> <p>・校外での交通違反はあったが、重大な事故やケガはなかった。</p> <p>・陸上部、卓球部では定時制通信制全国大会に、野球部では合同チームとして近畿大会に出場した。</p>	<p>依然、欠席の多い生徒や学習意欲の低い生徒がいるのは事実である。さらに創意工夫を重ね、授業の魅力で生徒の学校生活の充実を図れるよう、専門教科、普通教科ともに努力を重ねたい。生活体験発表会では、ごく短時間の発表が約1/3も見られた。もっとしっかり発表させられるようにしたい。</p> <p>1年生からの早期対応。個別対応を継続的かつ計画的に担任と共に進路指導にあたる。担任は4年間受け持つのが望ましい。</p> <p>年齢層や業種等、より多岐にわたる方々と交流する機会を設け、生徒の社会性を向上させる工夫を凝らしたい。</p> <p>校外での交通ルールやマナーについても、適正なあり方を考えさせたい。</p> <p>活動日数や参加者を増加し、より高い目標設定をもとにした活動が必要である。</p>	<p>・アンケートの調査項目について、もう少し具体的なものにしてほしいのではないかと。</p> <p>・ボランティア活動に対する関心が高まってきているように思う。</p>	
<p>2 外部との連携・情報発信の強化</p> <p>①五條市・五條市教育委員会・地元自治会・老人会等との連携                  ②地元幼稚園との連携強化                  ③学校・家庭・地域・関係機関との連携強化                  ④入学希望者数の確保                  ⑤ホームページの充実</p>	<p>⇒地元行事への積極的参加 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">29年度&lt;目標:4回&gt;</span> 8回</p> <p>⇒農業クラブ・家庭クラブとの交流強化 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">29年度&lt;目標:10回&gt;</span> 10回</p> <p>⇒学校行事への育友会会員の参加者数 (総務部) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">29年度&lt;目標:40%</span> 32%</p> <p>⇒学校ブログ年間更新回数 (総務部) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">29年度&lt;目標:200回&gt;</span> 267回</p> <p>⇒ホームページでの情報発信 (総務部) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">29年度&lt;目標:年間20回&gt;</span> 28回</p>	<p>8回</p> <p>10回</p> <p>32%</p> <p>267回</p> <p>28回</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>・通学路清掃、雪道への融雪剤散布の他、地域の祭や行事への参加を意欲的に行った。</p> <p>・健康祭では、家クと農クが協力しあえた。幼稚園の園芸交流や行事参加も連携しあえた。</p> <p>・全国募集に向けて8月から市教委による新しいホームページも開設され、閲覧数も飛躍的に増えた。</p>	<p>健康祭の主体的な運営を、生徒会並びに農業クラブが担わなくてはならない。その準備をH30年度から進める必要がある。幼稚園との交流も、工夫して継続させたい。</p> <p>旧・新ホームページの連携、あるいは一本化を目指したい。</p>	<p>・健康祭や通学路清掃、幼稚園や老人福祉施設との交流などの行事を通して、地域との連携を深めてもらいたい。</p>
<p>3 学校改善のための継続的・創造的な取組み</p> <p>①新たなスクールアイデンティティの構築</p>			<p>・分校の現状・課題を分析し、</p>	<p>H30の全国募集に向けて、本</p>		

②コミュニティ・スクールによる学校改革 (学校運営協議会)	⇒啓発活動(分校部会)の回数 ・平成29年5月～平成30年2月実施	29年度<目標:年間4回>	100%	A	農業高校としての生き残りを模索し、学校運営協議会に提示した。	校の特色ある取組の周知徹底を中学校訪問や高校見学、広報活動等で行う。	
③地域に根ざし、共に歩む学校づくりと改善プラン (スクールカウンセラー・スーパーバイザーの単独配置) ○支援を必要とする生徒やその保護者を対象に、カウンセリングを受ける機会を広げる。	⇒生徒アンケート「先生は親身になって接してくれ、気軽に相談できる」 (生徒指導部)	29年度<目標:80%>	82%	A	・カウンセリングや指導方針の立案に五條市こどもサポートセンターの支援を得た。	学外機関とのスムーズな連携にむけた体制づくりを強化したい。	・支援を要する生徒に対するサポート体制の充実を図りたいを思っている。
④北海道現場実習の継続 ○評価委員会における参加者の決定等	⇒生徒アンケート「生徒に人権を尊重する態度を身に付けようとしている」 (人権教育部)	29年度<目標:95%>	75%	B	・全員参加させられず残念だった。評価の低い参加生徒もいた。	H30年度からの1年生の校外実習と連携させて位置づける。意欲的な生徒づくり。	
⑤魅力向上計画の推進・協力	⇒受入農家評価(教務部)	29年度<目標:90%>	80%	B	・中学校訪問等積極的に行った。	校内研修を数回行い、市教委と連携することが必要。	
	⇒プロジェクト会議への参加	29年度<目標:6回>	80%	B			

各分掌等の評価計画

分掌等	具体的目標	具体的方策	評価の指標等	自己評価	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価	
総務部	2-⑤ ○学校関係者への情報発信の充実に努め、積極的な意見聴取を行うことにより、学校・家庭・地域の連携をより強化する。	・育友会・同窓会等との連携を密にし、学校運営に対する協力・援助を求める。 ・育友会役員会の在り方を工夫し、参加しやすい状況を確保する。	・育友会・同窓会の定例会に参加し、機会に応じて学校との交流を図る。 ・育友会の学校行事への参加意識を高める。 29年度<目標:40%>	32%	B	・育友会員の減少が著しく、学校行事毎の案内を行ったにもかかわらず参加率は上がらなかった。	育友会員の増加が見込まれるので、学校行事への参加、家庭と地域との連携を深め、運営に協力を求めていく。	
	3-⑤ ○中学生やその保護者を対象に賀名生分校の魅力情報を発信する。	・賀名生分校紹介のパンフレット等を作成する。 ・学校説明会(中学校・保護者等)を開催する。	・五條高校パンフレットに加え、分校独自のパンフレットの内容を検討し、改訂する。 ・機会あるごとに説明会を開催し、中学校訪問等も実施し、賀名生分校の特色を理解してもらう。(年間5回以上)	6回	A	・今年度からの全国募集に伴い、説明会4回、中学校訪問やパンフレットの配布を7月と11月に実施し、賀名生分校の特色を広めることができた。 ・農繁期休業がなくなり、11月に中学校訪問するのは難しくなる。	今年度並みに説明会、中学校訪問をするのは難しく、時期等十分考慮の上、市教委と連携を取り、ターゲットをしぼり、早いうちに年間の実施計画をたてる必要がある。	・ホームページや中学校訪問、学校説明会を通して、賀名生分校の魅力を十分に伝えられたと考えている。
	3-② ○中学生に本校の様子について体験できる機会を提供する。	・中学生の高校見学を開催する。	・8月第3土曜、12月第1土曜に開催する。 29年度<目標:10人>	38人		・8・11・12月(2回)に実施し、見学や体験実習を通して十分に本校の特色を広めることができた。	市教委と連携を取りながら、充実した内容で実施していく必要がある。	
	2-① ○地元幼稚園との交流。	・学校へ招待したり、定期的に訪問し、交流の機会を設ける。	・ふれあい健康祭や、食育活動・農業実習等、機会に応じて交流を図る。(年10回以上)	15回	A	・農業科を中心に家政科も、幼稚園での年中行事等に参加し交流を深めた。	継続した定期的な活動で、交流を深める。	
	2-⑤ ○学校ホームページやブログを充実させる。	・学校Webページの充実を図り、保護者等にリアルタイムで学校の状況を伝える。	・生徒の様子をリアルタイムで伝え、情報をタイムリーに発信する。内容の充実を図り、アクセス数を増やす。 29年度<目標>:月3,000件	8千件	A	・教員の協力も得て、多彩な情報で生徒の様子を伝えることができ、アクセス数も増えた。	教員の協力を得ることで多角度から、生徒の様子、学校の情報を伝えていく。	
教務部	1-(1)-① / 1-(1)-② ○座学と実習の時間割配置の工夫	・豊かな自然を生かし、落ち着いた環境で学習に取り組める環境づくりに努める。 ・各教科・科目とも基礎・基本の確実な定着を図り、一人ひとりの生徒のもつ能力を最大限発揮できるよう、指導法・教材の工夫改善を行う。	・落ち着いた環境の中、シラバスによる「わかる授業」を展開し、主体的に学ぶ姿勢づくりに努め、出席率の向上をめざす。 28年度 90.0% → 29年度<目標:95%>	90%	B	・欠席の多い一部の生徒がいる現状をふまえて、改善の余地がある。ただ、3学期制となり、成績不振科目保持率は前年度よりも大幅に減少した。欠席の多い生徒も、学期末に補習等を課すことで、2学期後半から3学期には欠席率も下がった。	授業の創意工夫や努力は、教員として常に必要である。あまり授業に集中しなくてもテスト点さえとればよいと思う生徒もいるようだ。また、迷惑はかけないが、寝たり、スマホをさわる生徒がいる現状もある。努力を重ねるしかないと思われる。	・さまざまな機会をとらえて授業研究の取組を進めてもらいたい。
			・「学習の仕方」が身に付く授業を目指し、成績不振科目保持率の減少に努める。学期末等には補充学習を実施する。 28年度 13.0% → 29年度<目標:10%>	0.8%	A			
			・学校行事等の意義の確認を徹底し、出席率の向上を図る。 28年度 93% → 29年度<目標:95%>	93%	B			
	1-(1)-③ / 1-(2)-④、⑤ ○地域との連携による社会性の醸成などに努める	・多様な学習形態、個に応じた指導の改善・充実を図る。 ・「魅力的で活気ある学校」を創造し、しっかり登校できる生徒を増やし、生徒にとって輝きのある学校を目指す。	・家庭・地域等を含めて、広く学習の場とする。特に地域との連携活動を、28年度の約13項目から、15項目へと生徒や保護者に説明できる適切な評価を行う。		B	・H29年度は、3学期制になり農繁期休業がなくなった。しかし、6月と11月に全校生対象に職場体験実習に取り組め、有意義であった。また、地域の祭へのボランティア参加も、生徒の成長にとって有意義であった。	H30年度は、1年生が週1回校外実習がほぼ実施される。それに伴い、2～4年生も長期休業期間などに、職場体験やアルバイトなどを働きかけたい。また、ボランティア活動参加も促し、勤労意欲の高い生徒育成を図る。	
・教育課程上のみならず、様々な学習機会を通して、生徒の育成を図っていく。				A				
生徒	1-(2)-③	・全体指導や個別指導、家庭との連	・昇降口指導(服装・頭髪等)を年10回以上行う。	12		・昇降口指導期間だけではな	生徒会等にも定期的に昇降口	

指導部	○規範意識の向上と基本的な生活習慣の確立。	携を通して、服装・生活態度・礼儀・挨拶・時間の遵守など日常生活に拘わる基本的ルールを守る姿勢を育てる。	・特別指導（訓戒）の件数を昨年以下（年間2件）におさえるよう日々の指導に努める。	回 3件	B		く毎朝多くの先生方が昇降口で挨拶を行い、生徒の様子を見ることで、適切な指導につながっている。	での挨拶運動への参加を促す等、生徒自身で基本的ルールを考えさせる機会を作る。	
	3-③ ○複雑で多様化している生徒とそれに伴う問題行動の多様化に対する指導の確立。	・教員間の報告・連絡・相談を重視し、諸課題について教員間の共通理解をはかる。 ・いじめの防止等のための基本方針に基づき、いじめの防止、早期発見につとめ、組織的な対応を行う。	・問題行動などの早期発見のため、登下校、授業中、放課後などの巡視を徹底する。教室の戸締まり、貴重品の管理など生徒自身の自己管理を促す。 ・個人別生活カードの円滑な運用を図る。 ・問題事象については、メモをとり保存することを徹底する。	A B	B	B	・下校時、授業中等巡視が十分ではない部分もあったが、盗難、貴重品の紛失はなかった。問題については職員間での共通理解を図りながら生徒に応じた対応につとめた。事象についてのメモは十分であるとは言い難い。	生徒の状況についての観察を多くの職員でより多角的に行う。事象についてのメモは、時間経過後の振り返りに使用できるように、その都度確認する。	・生徒の状況について、職員間で十分に情報交換を行ってほしい。
	2-③ ○保護者や各関係機関との連携をとり、生徒の状況に応じた適切な指導を目指す。	・保護者との連絡・連携を密にする。 ・各関係機関との連携を密にする。	・4月の家庭訪問では、指導方針についての理解を求めるとともに、生徒の状況についての把握に努める。 ・生徒への声かけを積極的に行い、円滑な人間関係を築いて、生徒の抱える問題の把握につとめる。 ・生活安全・規範意識の向上に関する講演会や研修を年1回以上開催する。	A A	A	A	・問題発生時に限らず、家庭との連絡は、おおむね適切に行われていた。その結果として、苦情や不満の連絡は少なかった。SNS等の危険性に関する講演会を開催した。	生徒の現状をふまえ、より向上できる指導のあり方を職員間で検討しやすい雰囲気をつくる。指導方針や目標に関して、保護者と共通理解できる関係作りを促す。	・保護者との関係を大切に、生徒の指導に取り組んでほしい。
	2-③ ○安全教育の推進。	・危機管理や安全についての意識を高め、防犯や不審者の対応についての理解を深める。	・警察、消防署、各医療機関などと連携を図り、交通安全教室や薬物乱用、救命救急、大災害、防犯や不審者の対応について、学期ごと（年3回以上）に講演会、危機管理マニュアルを随時確認する。	1回	C		・薬物乱用防止に関する講演会を警察に依頼して行ったが、それ以外の題材については行わなかった。	寮の設置にともない、救命救急、大災害、防犯や不審者の対応について、認識を深める機会が特に必要。	
進路指導部	1-(1)-④ ○計画的・系統的・組織的に進路指導を行う。	・より早い時期から卒業後の進路を意識させるホームルーム活動や、進路相談を実施する。「進路のしおり」（仮称）を整備する。	・卒業までに全員の進路保障をする。 ・年間計画に沿って、ホームルームで進路指導を実施するためのワークシートを準備する。 ・面接指導を目的とした職員研修を実施する。	60%	B		・進路未内定2名。卒業までの行程表を配布し、将来を見据える意識を持たせた。就職等の面接指導に全校的な体制がとれなかった。	進路未内定生徒2名の卒業後の相談窓口を提案する。（教育研究所・ひまわり等）	
	1-(1)-④ ○多様な生徒一人ひとりの進路の実現に向けて、明確な目的意識を持って生活させる。	・進路相談や意識調査を実施し生徒の希望を探り、意識を高める。 ・多様な生徒の進路を保障するため、関係機関との連携を図る。	・進路指導室を有効に活用し、随時、個別に相談を受けることができる態勢を整え、利用状況を記録する。 ・支援が必要な生徒を安定した雇用(福祉就労A型)に結び付ける手だてを構築する。	60%	B	B	・各学年にアンケートを実施、生徒の希望把握に努めた。就労アセスメントの実施を経て福祉就労B型事業所へ就職（見込み）	支援が必要と思われる生徒への療育手帳取得への早期取り組み。療育手帳取得生徒の一般就労への取り組み。	・生徒の状況に応じた進路の取り組みをすすめてほしい。
	1-(2)-⑤ ○望ましい勤労観、職業観を身に付けさせる。そして、早期離職を未然に防ぎ、就職先への定着を高めキャリアを積ませる。	・卒業生のフォローを実施し、卒業生とその上司の意見を聴き、早期離職の防止を目指すと共に、進路指導にフィードバックさせる。 ・職場体験、インターシップを適切に実施する。	・旧担任への協力を求め、定期的に状況調査を実施と卒業生就職先への訪問により可能な限り現状を把握し、記録を残す。 ・職場体験・インターシップの受け入れ先を新規に開拓し、生徒のニーズに対応する。 ・事前指導・振り返りを充実させて、その効果を高める。	70%	B		・早期離職3名(H28.3卒)職場体験実習の受入先の新規開拓(10社)し生徒の希望に添えるようにした。	H30年度以降の農業担い手に向けた実習とは別に、職業意識を高めるため、進路の幅を広げるためにも、この取り組みは継続する。	
人権教育部	1-(2) ○職員の人権意識の資質向上を図る。	・人権教育推進に関する職員研修会を実施する。	・職員会議時の研修として、ホームルーム指導案の検討等をおこなう。 ・県主催の研修会等の案内、参加を呼びかける。	70%	B		・職員会議時ではなく、職朝時に指導案を提示したが、内容について十分に検討してもらい余裕がなかった。校外研修会についても案内が十分でなかった。	人権ホームルームの1週間前に職朝で指導案を提示し、先生方から意見を出してもらい内容を検討する。校外研修会については案内を回覧し、参加を呼びかける。	
	1-(1)-③/1-(2) ○生徒の人権意識を高める。	・生徒一人ひとりの自尊感情を高める。 ・生徒のコミュニケーション能力を高め、対人関係づくり、他者理解の力を養う。	・人権ホームルーム（5月、11月）の実施。 ・ホームルーム時に人権作文を書かせる機会をつくる。 ・校内映画会等で人権に関わる作品を取り上げる。 ・人権ホームルームだけでなく、さまざまな学校行事を通して、生きる力を養う。	70%	B	B	・人権ホームルームは5月と1月に実施できた。11月の全校人権学習会映画会では人権に関わる作品（「1リットルの涙」）を取り上げた。	ホームルームで出た生徒の意見や感想を生徒たちに戻し、そうした意見や感想を通して、他者への理解力が深まるような展開を検討する	
	3-③ ○特別支援教育の向上に努める。	・支援を必要とする生徒の把握を職員間での情報共有を図る。	・家庭訪問や中学校訪問を実施して、支援を必要とする生徒の把握に努める。 ・職員会議時に研修会を開き、支援を必要とする生徒に関する情報の共有を図る。 ・授業等においては、担任と連携をしながら、分かる授業の展開に努める。 ・県主催の研修会等の案内、参加を呼びかける。	70%	B		・支援を要する生徒だけでなく、その他、気になる生徒についても、保護者と連絡を取りながら、状況の把握に努め、職員会議で情報の共有を図ることができた。 ・校外研修会については、案内が十分でなかった。	生徒の授業や休み時間の様子についても観察し、情報交換して課題共有する。校外研修会については案内を回覧し、参加を呼びかける。	・登下校時、授業や休み時間など、あらゆる場面での生徒観察を大切にしてほしい。
第1学年	1-(2)-③ ○基本的な生活習慣を確立させる。	・高校生としての自覚と基本的な生活習慣を身に付けさせる。	・家庭訪問を実施し、家庭との連携を図り、欠席・遅刻の減少に努める。	70%	B	B	・家庭訪問などにより保護者と連携をとったこともあり、遅刻・欠席は少なかった。細やかな声かけをすることで、生活習慣が大きく崩れることを防ぐことができた。	家庭での悩みを抱えている生徒も複数いる。それらの生徒に対しては、教員からの聞き取りだけで終わらずに、スクールカウンセラーの活用なども必要である。	・学校生活の基本となる生活おぼび学習の習慣を身につけさせてほしい。
	1-(1)-①/1-(2)-③ ○基礎学力を身に付けさせる。	・授業の大切さを理解させ、学習に取り組む姿勢の向上に努める。	・考查点だけでなく、日々の授業の様子や提出物等も成績として評価されることを理解させ、日々の授業を大切に、各教科の欠課時数を減らすとともに、ノート、プリント等の課題に積極的に取り組ませる。	90%	A		・学習に対して意欲的な生徒もおり、日常的に授業を大切にすることができている。生徒自身も、基礎学力を身	学習に対する姿勢はよいが、考查などで点数を取るための学力が不足している。今後も根気強く指導を行わなければ	

							に付ける必要性を理解している。	ならない。	
第2学年	1-(2)-③ ○規範意識を高める。	・きちんとした言葉遣い、身なり、礼儀作法を身に付けさせ、自律心を養う。	・担任が意識改革をし、率先垂範する。	90%	A	B	・教室の清掃を担当生徒と共に毎日きちんと行い、その様子を他の生徒にも見せるように取り組んだ結果、教室の環境・美化などにクラス全体の意識が高くなった。人間関係の摩擦に翻弄される生徒が目立った。比較的、職場体験に関心のある生徒が多く、アルバイトを始めた。具体的に行動しつつある。	率先垂範は継続する。担任はきちんと指導するの認識をさらに定着させる。生徒との会話をさらに増やし話しやすい関係を深化させる。観察を絶やさずおこない、家庭の様子など生徒の置かれている環境把握に努める。	・学級活動を通して、誰とでもより良い人間関係を築くことができる力を養ってもらいたい。
	1-(1)-③ ○他人を思いやる心を持たせる。	・各自が2年生8名の一員であることを自覚させ、連帯感を持たせ、社会性を育む。	・日常的に生徒の観察を行い、状況に応じて積極的に関与する。	60%	C				
	1-(1)-④ ○卒業後の進路を意識させる。	・職場体験実習等に積極的に参加させ、職業意識を持たせ、生きる力を育む。	・職場体験実習に全員の参加を促す。	80%	B				
第3学年	1-(1)-①/1-(2)-③ ○規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	・社会人として必要な礼儀作法や規範意識を身に付けさせる。	・場をわきまえ、他者を思いやる言動ができるようになる。 ・修学旅行などを通して集団行動、規範意識を身に付けさせる。	70%	B	B	・欠席は学期ごとに減少していったが特定曜日の欠席が目立った。授業は実習、座学ともに積極的に取り組んでいたが、学んだことを自分の言葉にするのは難しかったようだ。進路に関しては保護者とも連絡を取り、生徒に合った職場体験実習をさせることによって意欲を高められたが、実習先が定まらない生徒のフォローがもっと必要だと感じた。	生活習慣の改善を保護者の協力を得ながら行っていく。HRなどで授業や実習の振り返りを行う時間を作るように心がける。進路先、やりたいことが定まらない生徒には色々な選択肢を提示できるように、進路指導部とも連携して職場実習先を探す。	・進路に向けて、将来の目標について、しっかりと考えさせるような取り組みを進めてもらいたい。
	1-(1)-③ ○学習方法と表現力の向上を図る。	・学ぶ方法や学んだことの表現方法を身に付けさせる。	・座学、実習を関連させて学んでいるか、学んだ事柄を自分の言葉で伝えられるかの確認に努める。	50%	C				
	1-(1)-④ ○進路目標を具体的にさせ、その実現に向けて取り組ませる。	・進路目標を主体的に模索し、その実現に向けて取り組ませる。	・進路に関する希望や意志を随時確認する。 ・職場体験やオープンスクールに参加させる。	90%	A				
第4学年	1-(2)-③ ○最高学年としての自覚と責任をもたせるように指導する。	・下級生の模範となる生活習慣・生活態度を確立するとともに、自身の生活習慣を振り返らせる。	・年間欠席総数の減少に努める。	70%	B	B	・1学期は欠席日数の多い生徒もいたが、2学期は進学・就職等のため、3学期は卒業のため、という具体的な目標があったので、欠席数も減った。進学・就職に関しては、進路指導部と連携しながら、12名中10名が進路を決定してくれた。 ・社会人としての心構えや態度については、進路が決定したことや、3学期に定期考査がなくなり、勉強する必要がないなどもあり、他学年の手本となれるような状況にはならなかった。	進路決定後、社会人としての意識醸成を図る。最高学年という意識があまり持っていない生徒に対し、学校の中心であることを更に理解させ、卒業に向け気を緩めるのではなく、一層引き締めるよう指導する。	・最高学年としての自覚を高め、進路実現に向けての取り組みを保護者と連携しながら進めてもらいたい。
	1-(1)-④ ○進路実現へ向けて充実した指導を図る。	・北海道現場実習や就業体験を通して、正しい勤労観・職業観を養う。 ・生徒の適性や可能性を活かした進路指導を行う。	・生徒、保護者の考えを十分に踏まえた上で、進路指導を進める。 ・進路先のミスマッチがないように、必ず会社見学を行ってから試験に臨ませる。	90%	A				
	1-(2)-③ ○社会人となるための心構えや態度の向上を図る。	・挨拶の励行や時間を守ることの大切さを徹底するとともに、高校生としての服装や言葉づかいを指導し、卒業後に備えさせる。	・最高学年として、他学年の手本となれるような行動ができるようになる。	60%	C				
農業科	1-(1)-② ○基本的な農業技術の定着を図る。	・実験実習を重視し、実践的な授業を展開する。 ・生徒が積極的に学ぶことができる、安心・安全な農場づくりに取り組む。	・実験実習を50%以上行う。 ・各分野の教材を80%以上整備する。	50% 80%	A	A	・校内だけではなく、近隣農家での実習も取り入れ、知識や技術の習得だけでなく、コミュニケーションの育成も図ることができた。 ・JA西吉野のウメとカキの選果場にて、6月と11月に実施。パンドラファームや石井物産、農産物直売所実習も有意義であった。 ・果樹農家、野菜農家、農業生産法人へも多く参加した。 ・プロジェクト発表1、意見発表3、上級、農業鑑定、近畿大会出場。地域の祭のボランティア活動に参加。	教材の計画から実施において、生徒の意見やアイデアを活かす等、生徒の興味や関心を高める工夫を模索する。  H30年度の年間計画では、H29年度ほど全校体制で、職場体験に参加させられないため、長期休業期間の活用や、アルバイトなどを積極的に働きかける必要がある。多くの1年生にも、早くから農業クラブ活動に参加させたい。30年度こそ、全国大会出場を果たして欲しい。	・自立できる農業家の育成に向け、実践的な授業の取り組みを進めてもらいたい。
	1-(2)-④, 1-(2)-⑤ ○地域農業の状況や課題に関する学習内容の充実を図る。 ○北海道現場実習、地域農家での実習を充実させる。	・農家での実習により、技術だけではなく、勤労観や経営観を育成する。 ・安全な食料供給、環境に配慮した栽培技術についての関心を高め、食育活動につなげる。	・地域の農業関連施設での活動、実習を年間5回以上行う。 ・地元農家での実習を年間5回以上実施する。	5回以上	A				
	1-(3)-② ○農業クラブ活動の充実を図る。	・各競技会にむけた取り組みを強化し、地域行事などに積極的に参加する。	・県連盟競技会、発表会に3部門以上参加し、近畿大会に出場する。 ・地域の伝統行事に積極的に参加する。	5部門	A				
家政科	1-(1)-② ○基礎的技術の定着を図る。	・実習主体の授業を心がけ、体得的な学習によりやる気を起こさせ、基礎的な技術の定着を図り、能力に応じた技術の習得を目指す。 ・地域に密着した家庭クラブ活動を通じて、自主的に取組む姿勢、社会性や奉仕の精神を育む。	・実習を重視し、年間授業の1/3以上実習を行う。	1/3	B	B	・教科により偏りはあるが、実習重視を心掛け実践できた。 ・検定では、基礎的技術の定着が年々難しく、合格率が低くなったが、今年度の3級受験者、合格者ともに増加した。 ・家庭クラブ活動への参加は、自主的と言いが難いが欠席はせず、全員参加できた。	2年後の家政科の閉設まで、家政科のまとめとなるような活動・研究を行う。家庭クラブ活動の中で、農業クラブや生徒会等で継続できるものは伝えていく。	
	1-(2)-④, 2-①, ②, ③ ○家庭クラブ活動の自主的参加を促す。		・各種技術検定4級合格率100%。  ・家庭クラブ活動への参加率100%。	60%  100%					